

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2020年12月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- グレナダ等一部の国で新型コロナの感染が増加し、緊急事態宣言、夜間外出禁止等が発動された。英国での変異種の発見により、英国との航空便を停止した国もある。
- セントビンセントのラ・スフリエール火山の活動が活発化し、災害危険レベルがオレンジに引き上げられた。西インド諸島大学地震研究所観測員の派遣、OECS緊急首脳会合開催等、地域的な支援体制が協議された。
- 20年後半のカリコム議長国を務めたゴンザルベス・セントビンセント首相は、コロナ禍の中でカリコムの団結を示した1年であったとの年末メッセージを发出。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- 4日、OECSは、ユニセフは3万4,500東カリブドルを供与し、セントルシア政府と協力して、身障者及び養護施設の児童にコロナ禍対策の衛生用具の支援を実施すると発表。
- 8日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、コロナ禍で禁止していたヨットの寄港を再開すると述べたと報道。
- 8日付セントビンセント紙は、観光局は21年の観光客受入許可宿舎として148カ所を発表し、その内55カ所が新規に許可されたと報道。
- 9日付セントビンセント紙は、保健省は汎米保健機構からコロナ禍及び Dengue 熱対策用の医療機器の寄贈を受けたと報道。
- 12日付セントルシア紙は、台北市はカストリーズ市に2万4千枚の医療マスクと3千米ドルを寄贈し、台湾事務所で贈呈式が実施された報道。
- 13日付アンティグア紙は、メキシコはアンティグアを始めセントルシア、スリナム、トリニダード・トバゴ等に呼吸器を寄贈したと報道。
- 14日付セントルシア紙は、観光省は国境再開後の入国者は2万5千人を超えたが、観光産業従事者への感染拡大はないと発表したと報道。
- 15日付グレナダ紙は、感染者の増加に伴い、10人の集会制限、スポーツ活動の7日間禁止、店舗営業時間の制限等が発表されたと報道。21日付同国紙は、英国で変異種が発生したことにより、20日より英国との航空便は当面停止さ

れたと報道。22日現地紙は、政府は、緊急事態宣言を発出し、夜8時から朝5時までの夜間外出禁止を発表したと報道。

- 17日付アンティグア紙は、ブラウン首相は非常事態宣言を21年3月末で延長すると発表したと報道。
- 18日、OECSは、ブラジルから加盟国用に6千のPCR検査キットの寄贈を受けたと発表。
- 22日、セントルシア政府は、コロナ禍対策のため、フランスから40床のベッドの寄贈を受けたと発表。
- 22日付セントビンセント紙は、高リスク国からの渡航者は政府公認宿舎での検疫期間を5日から10日間に拡大すると発表したと報道
- 23日付セントキッツ紙は、ウイルス変異種発生のため英国からの航空便を26日から2週間停止すると発表されたと報道。
- 24日付セントキッツ紙は、保健省はワクチン接種者も通常の検疫措置を受けることには変わりないと述べたと報道。
- 25日付セントビンセント紙は、台湾の医療機器製造企業は、セントビンセントを含め台湾承認国に即応検査キット30万個を寄贈したと報道。

(2) その他内政

- 4日付セントビンセント紙は、野党新民主党は、11月5日の総選挙結果について裁判所への提訴は行わないと決めたと報道。
- 23日付セントビンセント紙は、同国警察は今年12月の犯罪件数は19年同月比で16.3%減少したと発表したと報道。
- 29日、セントビンセント国家緊急管理機関は、11月から火山活動が活発化していた同国本島北部のラ・スフリエール火山からのマグマ噴出が確認されたと発表し、災害危険レベルをオレンジ(4段階の上から2番目)に切り替えた。31日、西インド諸島大学セントオーガスティン校の地震研究所観測員3人がセントビンセント入りし、空中からの観察等を実施。避難勧告や命令は出されていない。31日、OECS緊急首脳会合が開催され、避難の際の施設確保等についての協力を協議。

3. 経済

- 1日付セントキッツ紙は、同国政府は、再建中のLIAT航空が同国に対して負う債務1,100万東カリブドルを帳消しにしたと報道。
- 1日付セントルシア紙は、11月25～27日に台湾専門家ミッションと農業省が協力して農産品展示会が開催され、コロナ禍対策規制措置の制限はあったが、大きな成功を収めたと報道。
- 2日付グレナダ紙は、ボーエン財務大臣は、総額12.3億東カリブドルの21年度予算案を議会に提出し、同国の公的債務のGDP比は、13年の108%

からコロナ禍発生前の19年末時点で60%に下がっていたと強調したと報道。

●3日付セントルシア紙は、同国と世銀は、保健体制強化プロジェクトに合意し、同国の保健体制の利用度、効率性及び即応能力を改善に協力すると報道。

●5日付アンティグア紙は、11月30日に運航を再開したL I A T航空はバルバドス及びセントビンセント便は新たな許可が得られないため停止したと報道。7日付ドミニカ紙は、ブラウン・アンティグア首相は両国がL I A T航空を差別したと批判したと報道。20日付セントビンセント紙は、同国はL I A T航空の運航を許可し、セントビンセント便が再開されたと報道。

●9日付セントキッツ紙は、ブラントリー・ネービス島首相は、2.37億東カリブドルの21年度予算を発表した、新税は含まれていないと報道。

●9日付セントビンセント紙は、国家緊急事態管理庁は、カナダ拠点のセントビンセント関係団体から1,440個の緊急食料・衛生用品(3万カナダドル相当)の寄贈を受けたと報道。

●9日、O E C Sは、EUと協力して、第11次欧州開発基金を利用して、成長、調和及び技術を通じた地域統合計画(R I G H T)の実施を開始し、この計画はO E C Sの経済成長と統合強化を目的に52ヶ月間実施されると発表。

●9日付セントビンセント紙は、EUはセントビンセントが違法・無報告・無規制(I U U)漁業に対して17年から科されている警告措置を解除するほど、十分な対策を取っていないと認定したと報道。

●11日付グレナダ紙は、中国臨時代理大使はカリアク島及びプティト・マルティニーク島を訪問し、高齢者施設や学校に冷蔵庫、洗濯機等2万東カリブ相当の機器を供与したと報道。

●11日付セントキッツ紙は、ユネスコは同国で教育、生物多様性及び社会枠組みに関する8万米ドルの技術協力プロジェクトを実施すると報道。

●14日付セントビンセント紙は、カリブ開発銀行は同国の学校設備改善のために1,370万米ドルの支援を発表したと報道。

●15日、カリブ開発銀行は、セントビンセントの太陽光エネルギー計画を支援するため860万米ドルの支援を承認したと発表。

●15日付セントキッツ紙は、台北市とバセテール市間の貿易フェアがオンラインで実施されたと報道。

●16日付セントキッツ紙は、15日ハリス首相は8.679億東カリブドルの21年度予算案を議会に提出し、コロナ禍対策、強靱性強化及び回復に重点を置いた内容と報道。

●18日付グレナダ紙は、パリクラブ債務返済停止イニシアティブに基づき、グレナダは米国との間で、20年5～12月に返済期限を迎えた32万米ドルの債務の繰り延べの合意に署名したと報道。

●18日付グレナダ紙は、世銀はグレナダのコロナ禍対策及び財政管理開発政

策支援のために2, 500万米ドルの支援を承認したと報道。

●21日、カリブ開発銀行（CDB）は、CDBは米州開発銀行（IDB）と協力してOECS各国のコロナ禍対策のために5千万米ドルの借款供与に署名したと発表。

●24日付セントルシア紙は、19/20年度の市民権のための投資プログラムで同国市民権取得者は188人で、その内70人には中国人であったと報道。

4. 外交

●1日、グレナダのサルガッサム海藻対策機材調達に関する無償資金協力2億円の交換公文署名式（オンライン）が実施され、ジョセフ外務・国際ビジネス・カリコム担当大臣及び平山大使が署名し、観光産業が打撃を受けている中で重要な時期の支援と感謝すると述べた。

●2日付セントルシア紙は、同国は中南米カリブ地域での環境分野の情報入手等に関する地域協定（エスカス協定）を批准することを承認したと報道。

●3日付セントキッツ紙は、台湾は初等から高等教育を対象に、174人への奨学金贈呈式を実施し、パウエル教育大臣は台湾の支援に謝意を述べたと報道。

●3日付セントキッツ紙は、同国とエスワティニは11月25日に査証免除覚書を署名したと報道。

●10日付セントキッツ紙は、同国とヨルダンが外交関係樹立のための共同声明を両国の英国駐在大使間で署名したと報道。

●10日付セントビンセント紙は、台湾は初等から高等教育を対象に、525人への奨学金贈呈式を実施し、キング教育大臣他が出席したと報道。

●17日付グレナダ紙は、米国からの100万米ドルの支援を受けて、沿岸警備隊の巡視船2隻の改修が完了し、全艦体制に戻ったと報道。

●17日付セントキッツ紙は、同国と北マケドニアは査証免除取決を両国の英国駐在大使間で署名したと報道。

●23日、カリコム事務局は、20年後半の議長を務めたゴンザルベス・セントビンセント首相が今年にはコロナ禍の中、カリコムの団結を示した年であった述べる年末メッセージを発表。

●30日付セントルシア紙は、台湾から中国語教師が到着し、中国語及び台湾文化等を教えると報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。